

# 電子的学術情報流通における仲介者の役割: エージェント、コンソーシアム、データ ベース、そして図書館

土屋俊(千葉大学)

2006年11月21日

## 要旨

学術情報流通のインターネット化によって、学術コンテンツは出版者(あるいは著者自身)から直接利用者に提供できるようになり、従来の印刷出版の物流モデルは大きく変わろうとしている。このなかで従来、流通を支援する側にいたエージェントの機能は図書館コンソーシアムの登場によって不要になるのか、あるいは、資源の所在を利用者に教えてきた二次情報データベースに重要な役割は残るのか。そして、図書館自身が最終利用者でない以上、電子図書館は本当に必要なのか。これらの問題について、最近の主要な動向を参照して状況を整理する。